

令和3年度 外国人への医療支援に関するオンラインセミナー

多文化共生社会の先にある

異文化間介護の現実

現在、新潟県でも在住外国人の定住化が進んでいることから、今後、外国籍住民の高齢化問題が深刻化してきます。言語や習慣の違い、介護保険制度の理解が困難なことなど、多文化共生社会の陰に隠れ多くの課題を抱える外国人高齢者をどう支えていくのか、関係者が協働し、日本人も外国人も安心して老後を暮らせる地域社会を作っていくためにはどうしたらよいか、先進地の事例などを通して考えます。

日時

3/26(土)13:30~16:30

定員

30人(参加費無料)

医療・介護関係者、企業関係者、行政・国際交流協会職員、社会福祉関係職員、外国人支援団体関係者、通訳ボランティア、外国人医療に関心のある方等、どなたでも参加できます。

方法

オンライン

(ZOOM ミーティング)

※申込方法は裏面をご覧ください。



内容

- 挨拶:新潟医療通訳センター 代表 坂口 淳 氏(新潟県立大学教授)
- 講演:「外国人高齢者は今 多文化共生社会の先にある現実」
外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト 代表 王榮(木下 貴雄) 氏
- 事例報告:NPO 法人神戸定住外国人支援センター(KFC) デイサービスセンター ハナの会
管理者・生活相談員(社会福祉士) 鄭秀珠 氏
- 意見交換

◆登壇者プロフィール◆

- 王榮(木下 貴雄)氏/「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト」代表、「あいち多文化ソーシャルワーカーの会」代表
中国帰国者公墓「平和の碑」監理委員会副委員長、愛知県立大学非常勤講師
中国からの引揚者で認知症が進み「母語がえり」になる父の介護をする中で、言葉が通じない介護の大変さを痛感し、2014年に「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト」を発足。専門知識を持った中国語介護通訳の養成とボランティア派遣、異なる文化としての「介護・終活」に取り組む。
- デイサービスセンター ハナの会
地域に暮らす多様な文化背景を持つ人々が「ともに生きる」ことができる社会に向け活動する民間団体「NPO 法人神戸定住外国人支援センター(KFC)」が 2005 年に開設。ハンガール、中国語、英語、ベトナム語、スペイン語ができる多様なルーツを持つスタッフにより構成。食事やレクリエーションにおいても言葉や文化に配慮したサポートを行い、在日コリアンやベトナム人、中国残留邦人帰国者など異文化をもつ人にもやすらぎの場となるサービスを行う。

主催:にいがた医療通訳委員会(新潟医療通訳センター)/公益財団法人新潟県国際交流協会